森のこだま

第67号

守る会の三原則
一．決して争ってはいけない
　争いの中に弱いものの生きる場はない
一．親個人がいかなる主義主張があっても
　重症児運動に参加する者は党派を超えること
一．最も弱いものをひとりももれなく守る
運営基本理念
　人に優しい施設づくりを目指します

社会福祉法人 全国重症心身障害児(者)を守る会
保健医療・福祉施設あしかがの森
〒326-0011　栃木県足利市大沼田町615　TEL 0284-91-0611　FAX 0284-91-2867

昨年の倍の入場者で賑わった「ゆめ水族園」

◎入場者数1972人

昨年から行っているイベント「ゆめ水族園」は、今年も多くの来場者で賑わった。ゆめ水族園は、海中映像などをプロジェクターから投影して空間を設定する、いわゆるプロジェクションマッピング水族館。プロジェクターは、全部で6台使用。その内3台は㈱エプソンから、映像が内蔵された専用の機器(ファンタスカー)をレンタル使用している。専用機器のレンタルは、応募のあった全国各地の支援学校や福祉施設、病院へ無料でレンタルされている。これは、㈱エプソンの社会貢献事業の一環で行われている。昨年の957人の来場から、約倍の1972人の来場で、入所利用者以外にも多くの人が来場し、交流の場となっていた。

▼来場者の感想

「リラックスできた」
「想像以上だった」
「映像がキレイだった」
「癒された」
「この子は病院に対してトラウマがあったが、今回のことでいい記憶にすり替えられた」
「今年も楽しみだった」
「水に映してあったのがすごかった」
「病院の中でこの規模の企画をするのはすごい」
「お魚すくい楽しかった」
「また来年もやってほしい」

▼環境設定

今回の空間デザインを担当した坂井職員・村上職員は昨年の水族園をベースにして新たに、水への投影とトンネル投影にチャレンジした。特に、水への投影は、試行錯誤を重ねた。開幕してからも微妙な調整は必要だった。投影に使用したスクリーンはオーガンジーや寒冷紗で同じ映像を透過し、立体感や変化のある空間になるよう工夫した。水に投影された映像の魚をすくう体験のスポットには人だかりができていて、明るい声が飛び交っていた。

▼連動企画

期間中、会場になったホールロビーで「アオのアート展」「ゆめ水族園を観て絵を描こう」を企画した。アート展は、昨年から今年にかけて描かれた入所利用者のアート作品のうち、青が印象に残る作品から選んで展示。絵を描こうの企画は、会場隣のラウンジスペースで、ゆめ水族園の絵を描いてもらう企画。描かれた絵は、ロビーの壁一面に展示した。

病院は特殊でやや入りづらい印象のある場所だが、この企画によってさまざまな人達が立ち寄り、交流できる場所となっている。1972人というのは、足利市の人口の1・45パーセントに相当する。地域の文化交流の一つの拠点になっていた。来年も開催したい。

(山形陽一)

足利市福祉功労者賞受賞

足利市社会福祉施設代表者協議会より、北２病棟・谷田川一哉療育主任（サービス管理責任者）が、福祉功労者表彰として、長年の利用者・ご家族への支援、懇切・丁寧なサービス管理業務、地域への多大な貢献等が認められ、会長表彰を受賞しました。

９月18日（金）、あしかがフラワーパークプラザ（市民プラザ）において、表彰式が開催され、協議会の阿由葉会長より直接表彰を受けました。

今後益々の活躍を、期待しております。

おめでとうございます。

医ケア児の避難訓練報告会

８月５日（水）、安足健康福祉センターで、医療的ケア児の家族・自治体・施設が連携して行った避難訓練の実例報告会に参加してきました。災害時の支援は専門職だけでは成り立たず、平時から地域の人と顔の見える関係をつくることが大切であることを実感しました。当院では４月に「医ケア・重障者と家族支援センター」を開設しました。今回の学びを生かし、家族の声や困りごとを丁寧に受け止め、自治体や地域の関係機関と連携しながら、災害時にも安心して支援を受けられる地域づくりに取り組みたいと思います。

足利市障がい者基幹相談支援センター
児童支援部会　会長　田村義弘

消防フェアへ参加

９月５日（土）、午前10時から正午まで、会場は足利市朝倉町にありますアピタ足利店で消防フェアが開催されました。主催者発表では約２５００人が来場し、会場は多くの親子連れで賑わいました。当院は防火協会員として参加し、消防車や救急車のバルーン配布、防災グッズや消防車両オリジナル缶バッジが当たる抽選会のお手伝いをしました。屋外では消防・警察・自衛隊の車両展示も行われ、子どもたちは興味津々。来場した当院職員もお子さんと一緒に楽しいひとときを過ごしていました。

（浦野智幸）

施設の行事&NEWS

初夏のつどい

【西１病棟】

６月29日(月)、西１病棟では初夏のつどいを行いました。

「雨の季節を感じよう」をテーマに、〇×クイズ・雨音体験・フォトスポット・ゲームを行いました。フォトスポットでは色とりどりなあじさいの中で撮影し、素敵な写真が沢山撮れました。ゲームは、カエルとカタツムリに仮装した職員と一緒に的当てゲームを行いました。多目的ホールの装飾はテーマに合わせて、天井いっぱいにに赤・青・黄色等８色のビニール傘を飾り、アンブレラスカイを作りました。華やかな空間に包まれいつもとは違う雰囲気や、様々な体験を通して雨の季節を感じることができ、笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。

【西２病棟】

６月15日(月)、西２病棟では初夏の集いを多目的ホールで開催致しました。梅雨の季節ということで、アンブレラスカイの飾り付けをしましたが、利用者様が天井を見上げて笑っている姿をみることが出来ました。また、イベントのゲストとしてたかうじ君を招待し、保護者様と共に記念撮影をして楽しまれていました。次回も利用者様と保護者様の大切な交流の時間に相応しい催しを企画していきたいです。

【北１病棟】

６月11日(木)、北１病棟は運動会をテーマに初夏の集いを開催しました。玉入れでは、発射台とバズーカーを使って遠くから飛ばしてカゴに入れる方や、自分で玉を拾って投げる方もいて、自由に楽しむ様子が見られました。借り物リレーは、おもしろメガネや被り物等のアイテムを身につけて戻ってきた利用者の姿に、歓声や笑い声があふれていました。他にもスライドショーや七夕の短冊作りなど、盛り沢山な内容であっという間の楽しい大行事でした。

フラワーフェスティバル

【第５病棟】

５月15日(金)、５病棟は「お花」をテーマにフラワーフェスティバルを開催しました。デイルームではふじ園を体感できるスペースとし、廊下ではフラワーアレンジメント、自室ではお花のアロマオイルから好きな香りのオイルを１つ選び、オリジナルアロマスプレー作りを行いました。フラワーアレンジメントしたカゴ盛りのお花に、アロマスプレーをかける事でお花の匂いを感じる体験ができ、利用者の様々な反応が見られていました。

検査コラム

～細菌検査って何をしてるの？～

検査科　臨床検査技師　千葉友美

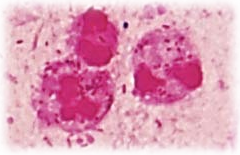
「細菌検査って結果が出るまでに時間がかかるけど何してるの？」と考えたことはありませんか？

今回の検査コラムでは細菌検査についてご紹介したいと思います。細菌検査には喀痰や尿などの検体を顕微鏡で観察する塗抹検査、細菌の種類を調べる同定検査、抗菌薬の効果を調べる感受性検査などがあります。各検査の内容を詳しくみていきましょう！

塗抹検査　　所要時間：30 分～数時間

検体をスライドガラスに塗り、グラム染色をして”菌がいるのか？どんな形態をしているのか？” 顕微鏡で観察します。白血球が菌をぱくぱくと食べている様子（貪食像）が見られることもあります。

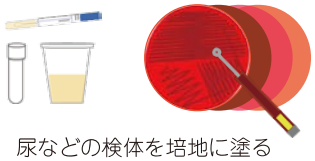
グラム陽性・陰性、球菌・桿菌の菌量、貪食像の有無を報告し、医師は、その結果を見て、初期の抗菌薬を選択しています。



インフルエンザ菌の貪食像

培養　　所要日数：１～２日（一般的な細菌）

次に、検体の中にいる菌はとっても少量なので菌を増やす必要があります。菌の発育には様々な栄養素が必須であり、栄養が豊富に入った寒天培地に塗り、37℃の孵卵器に入れて菌を培養します。一般的な細菌であれば、１～２日で菌が増え１～３㎜程度のコロニー(集落) を形成します。このコロニーを使用し、同定・感受性検査を行います。

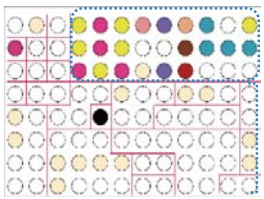


尿などの検体を培地に塗る

肺炎球菌のコロニー

同定・薬剤感受性検査　　所要日数：１～３日

同定検査は、約20種類の生化学的性状を組み合わせて菌種を決定します。同時に、薬剤感受性検査も実施し、試験管内で菌の発育が阻止される最小の薬剤濃度を求めて、どの抗菌薬が効くか調べます。検査結果は、菌名と併せて、各抗菌薬にＳ、Ｉ、Ｒの判定をして報告します。



同定薬剤感受性用パネル

同定検査
１つ１つの穴に糖やアミノ酸などが入っており
菌が発育し物質と反応することで色が変わる
色の組み合わせにより、菌種を決定する

薬剤感受性検査
抗菌薬の希釈系列が添加されており
菌の発育が阻止される最小の濃度を求める

薬剤感受性結果の解釈

S	感性	抗菌薬が効く
I	中間	基本的に用いないが使用できるケースもある
R	耐性	抗菌薬が効かない

生きている菌の検査のため１つ１つに時間と手間がとてもかかります。

また、細菌検査の検体は量よりも質が重要です！採取するスタッフの皆様ご協力よろしくお願いします。

イベント食の紹介

栄養科

ヒタメニュー　令和８年７月７日（火）

ヒタそうめん、茄子の肉味噌炒め、南瓜の甘煮、ヒタデザート

主食はそうめんです。白色・ピンク色（梅しそ味）・緑色（抹茶味）の３色を使用して、そうめんで天の川を表現しました。副食は、茄子の味噌炒めです。そうめんと合うような甘辛い味付けに挽肉を加え、たんぱく質を摂れるようにしました。2品目の副食は、ほうれん草の磯和えです。海苔の佃煮を混ぜることで風味が豊かな和え物にしました。デザートは、七夕デザートです。全体的に七夕飾りをイメージして作りました。口どけなめらかな抹茶ケーキに生クリームを絞り、竹を表現しました。また、色とりどりのゼリーで星（桃味）や笹（キウイ味）や短冊（いちご味）を表現しました。七夕を楽しんでいただけるよう、味や色合いを工夫しました。

十五夜メニュー　令和８年９月25日（金）

月見うどん、けんちん煮、春菊磯浸し、お月見デザート

主食は月見うどんです。温泉卵を月に見立て、にんじんピューレで作ったお花、万能ねぎを飾りました。副食は、けんちん煮です。足利市では昔から十五夜などに、けんちん汁を食べる風習があったそうです。今回は汁物ではなく、煮物として取り入れました。2品目の副食は、春菊磯浸しです。海苔の佃煮を混ぜることで、春菊が食べやすくなっています。デザートは、お月見デザートです。カスタードロールケーキで月をイメージしました。黒ごまプリンをペーストにしたものを夜空、ホイップクリームを雲に見立てています。
今回からイベントカードに、アートクラブがデザインしたイラストを採用しています。

ボランティアの受入（令和8年7月～9月）

7月	たたみもの	団体	5回
8月	たたみもの	団体	2回
9月	たたみもの	団体	4回

編集後記

近年、生成ＡＩは医療現場にも急速に広がり、文書作成や情報整理など業務効率化への期待が高まっています。一方で、判断の根拠が不透明な場合があることや、個人情報保護、誤情報のリスクなど、解決すべき課題も少なくありません。今後は技術を過信せず、医療従事者が最終的な責任を持ちながら適切に活用していくことが求められます。患者さんにより良い医療を提供するため、私たちも新しい技術との向き合い方を考え続けていきたいと思います。

（ＡＩ・Ｈ記）